

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 25 年 3 月 8 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200054		
法人名	株式会社アイズ		
事業所名	グループホームなぎさ		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡岬町淡輪4658番地の1		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	平成25年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岬町で唯一のグループホームであり、隣接した医療法人なぎさ会との医療連携も充実している。地域密着型サービスという事で、地域との交流にも力を入れている。地域の福祉委員や民生委員、地域ボランティアの方々に関わりを持ってもらっている。他にも近隣の幼稚園や小学校、子育て支援センターなどの機関とも積極的に関わり、世代を超えた交流が出来るよう努めている。介護の面でも、職員が入居者1人1人の出来る事を把握し、過剰介護にならないよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念であるその人らしさや地域交流を大切に支援がされています。利用者一人一人の声に耳を傾け、利用者個々の特性や希望を把握しながら、利用者が出来ることを最大限引き出せるよう職員が利用者に寄り添いながら、その人らしく生活が送れるように支援されています。また地域交流が特に盛んで、日頃より地域の福祉委員や民生委員、地域ボランティアの方々との交流があり、地域行事に招待して頂いたり、事業所における行事に参加協力して頂いたり地域に根ざした関係づくりがされています。近隣の幼稚園や小学校、子育て支援センターなどの機関とも相互に行事等の行き来があり、世代を超えた交流にも努められています。火災や地震時等の災害対策についても地域の方々との会議をしたり、防災訓練を一緒にするなど連携が強化されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい暮らしや、地域に暮らす事の大事さ、家族支援等の理念を掲げており、理念を職員が見やすい廊下に貼付し意識づけを行っている。	事業所独自の理念がホーム内に掲げられ、職員会議においても理念についての話がされ、職員全体に意識統一されています。理念であるその人らしさや地域交流を大切に支援がされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉委員の開いている喫茶に通う。岬町ボランティアグループが月に一度訪問してくれている。子育て支援センターへ月に一回訪問している。	日頃より近隣の幼稚園や小学校、地域との交流があり、相互に行事への参加があります。また、ボランティアの受け入れや福祉委員の方の訪問もあり、利用者が地域の一員として生活が送れるよう支援されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接してる診療所やデイケアの患者や利用者家族から相談を受けることもあり、ホームの介護経験から助言をしたりホームの見学などをしてもらったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状と事故などを報告したり、グループホームの取り組みを話し、役場職員などの参加者から指示を仰いでいる。	民生委員や福祉委員、地域包括の職員等の参加があり、ホーム内の取り組みについての話や災害時等の話がされていますが、年2、3回の開催にとどまっています。	地域交流が盛んであることを強みに、2か月に1度会議が開催されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	認定調査の訪問の時に利用者の現状を報告し助言を頂く。それ以外でも運営に関しても助言を頂く為にしばしば役場を訪問し連携を取るようになっている。	日頃から役場及び包括の職員と連絡を密に取り、何かあれば相談に乗ってもらい、助言を頂いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、玄関の施錠は施設の立地上やむを得ず行っている	身体拘束に関する研修など行っていますが、利用者の安全面を考え、やむを得ず玄関の施錠及び利用者の動きを察知するためベッド柵やカーテン等に鈴が取り付けられています。	身体拘束をしないケアの実践に向けて職員理解を深めるための研修及び会議を開催し、職員の意識改革を行ってはいかがでしょうか。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部の講習等に参加し学ぶよう施設側から勧めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在必要としている利用者がいない事もあり、学ぶ機会や関係者との連携もとれていない。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に体験入居をしてもらうようにして、利用者や家族の不安を取り除き、同意のもとで契約を結んでいる。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や計画作成担当者は利用者へホームでの不満がないか聞く機会を作るようにしている。そして、家族会も定期的開催している。</p>	<p>利用者の声には常に耳を傾け、利用者家族に対しても面会時に積極的に声をかけ、何でも話せる関係づくりがされています。家族会も定期的開催され意見が言える機会が設けられています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>隔週で会議を開き職員の意見を聴く機会を設けている。他にも3カ月に1度管理者と職員の個人面談を実施している</p>	<p>隔週で開催される職員会議や職員との個別面談で管理者は職員の意見に耳を傾けるよう努めています。事業所における業務や行事について職員主体で意見を出し合いそれが反映されています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員一人一人の介護目標を設定し、やりがいを作っている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の研修を受けるよう促し、費用、交通費等も会社が負担し、職員が研修を受けやすい体制を作っている</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>計画作成担当者は同業者との意見交換や相談の窓口になっており、現在他スタッフも事業所を訪問しホームの現状などを報告してネットワークづくりをしている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居で来られた時や入居してすぐの間は出来るだけ管理者、計画作成担当者、リーダーが本人と話す時間を作り信頼関係を築く努力をしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居に来て頂いた際に管理者、計画作成担当者が十分に時間を取って家族の悩みや要求を聴くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの対象にならない、家族の要望がグループホームでないかと判断した際は、他施設の紹介を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、園芸、談話を一緒にして頂く事でスタッフの知らない事を教えてもらったり、新しい情報などはスタッフから提供するなどの関係を築いている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も衣替えや外出・外泊はなるべく家族に任せている。ホーム側も普段の様子を写真に残しホーム内に展示したり、各利用者に担当者を決め家族と密な関係を築くよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等の訪問や面会は制限をせずに来ていただいている。他にも本人が希望する地域の催し等にも参加するよう努めている。また、地域の人からも行事へ招待してもらう関係ができています。	入居前から参加している地域行事への外出支援をしたり、家族や友人等馴染みの方の訪問の受け入れをするなど馴染みの人や場との関係継続の支援がされています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の人間関係や趣味・嗜好を考え、利用者同士で関わりあえる機会を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状等を理由に退居された方も介護についての相談に来られる場合対応している。他施設へ入所された方にも職員が面会に行ったりして関係を継続している。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の能力や暮らし方を考え、強制的に何かをさせるような事はしていない。	日頃から利用者1人1人との関わりを大切にし、普段の話の中から思いや意向の把握に努め、家族とも相談し、その人らしく生活が送れるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	スタッフがコミュニケーションをとる為に利用者の過去の情報は不可欠なので入居前や入居後に本人、家族から情報を取り入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況は毎日記録し、毎日の変化を職員が共有するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が本人、家族がより良い暮らしになるために話し合い計画作成担当者に報告し、介護計画に反映させている。	担当の職員が本人及びご家族に思いを聞き、それをもとに職員間で意見交換を行い介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況は詳しく記録用紙に記入し、夜間も1時間毎に巡回を行いその記録を記している。その情報を計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考慮し単身者の場合買い物などを職員が行っている。家族が高齢の場合もこちらから出向いて相談に乗ったりするケースもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や福祉委員からは定期的な訪問や行事への参加、地域行事への誘いを受けるなどの支援を受けている。隣接する幼稚園もお互いの行事に参加する関係が出来ている		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を引き続き希望するかどうか確認したうえで、希望する方には家族に通院の同行をお願いしている。また、他の医療機関を受診する場合も管理者が家族と同行する体制も出来ている	なぎさクリニックに隣接し、クリニック受診希望者も多い状態です。他の医療機関受診に対してもご家族と相談の上、適切に受診できるよう支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	協力医療機関の看護師に日常的に支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関には毎週訪問診療を受け、時間外・休日には同一法人内の別の有床診療所にて時間外診療や緊急入院の受け入れをお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を見て嚥下困難や共同生活に無理が生じた場合の対応について家族、医師を交えて話しあっている。	入浴ができない、食事ができない等、重度化に伴い施設で対応できるケアについて、ご家族に説明を行っています。また、看取りについての指針が作成されています。	医療機関と連携が取れやすい状態を生かし、施設の対応力を高めていかれますことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や深夜は協力医療機関から指示を受ける体制が整っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防、避難訓練を実施し、職員に実践してもらっている。また、年一度は消防署立ち会いの下指導も受けている。水消火器で消火器の使用方法を指導してもらったりもしている	事業所での訓練だけでなく、自治会の方に訓練に参加していただいたり、町の防災会議に参加するなど地域の方とよい関係をつくり、協力体制が築いています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員会議では毎回声掛けや、入居者に対する対応を徹底するよう話し合っている。</p>	<p>外部研修を受け職員に言葉使いや対応について自覚を促すよう努めています。</p>	<p>一部の利用者の部屋ですが、足元が見え、トイレに入っていることがわかる状態になっており、その状態で介助がされていました。トイレ使用中は部屋のドアを閉めるなど配慮していかれることを望みます。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>声掛けをする際に、こちら側の意見を通すのではなく、まず本人の意思決定が出来るように声掛けするよう心掛けている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりペースが違うので食事、入浴、受診以外は自由に過ごしてもらっている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その日着る服等は自分で決めてもらい、更衣の介助をしている。また、化粧等も本人に任せている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好みの食べ物や、嫌いな食べ物を事前に把握し、食べれないものは別ものを個別に用意し、食事してもらっている。また、1日の献立を説明しつつ、料理の下ごしらえを手伝ってもらっている</p>	<p>利用者のできることを見極め、できることに参加してもらいながら三食調理を行い、利用者と職員が同じものを一緒に食べ、食事を楽しんでもいました。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量は一人一人食べられる量を提供し、水分も定期的に摂取してもらうよう心掛けている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は口腔ケアを必ず行い、介助の必要な人は介助し、本人に任せられる人は口腔ケアの声掛けのみ行っている</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ポータブルを使用したリ、排泄の時間帯を把握し、おむつの使用を減らしていくように支援している。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、個々に応じた支援がされています。利用者に対する声かけについても、本人の意思を尊重し支援するよう心がけておられます。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分不足や運動不足を予防する為、毎日全員で体操をしたり、水分補給は1日最低でも7回はとっている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の順番等は本人の希望を聞き対応している。また、入浴剤をいれたり、ゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しんでもらう工夫もしている。</p>	<p>職員の都合で時間等決めています。中でも入浴が楽しめるように工夫し、拒否される方についてもその気持ちを尊重し入浴日をずらすなど配慮されています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中でも本人が眠いと訴えがあれば、居室で休んでもらうようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の薬にかんして勉強会をして理解を深めるように努めている。また、個人のファイルに薬状を挟み職員がいつでも見れる状態にしている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>散歩や編み物、歌をうたったりと一人一人の趣味や楽しみにあった気分転換を行うように支援している</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけ、月に1度は必ず少し遠くまで外食や外出をしている。四季を感じてもらえるような場所へも行くように努めている。	天気の良い日は積極的に散歩に出かけ、地域のボランティア主催の喫茶に立ち寄るなど地域の方との交流も深めています。初詣や花見など季節に応じた外出も行い、写真に残しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は持ち込みしてもらっておらず、所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があれば電話をかけれるようにしている。また、手紙や年賀状のやりとりを行っている人もいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらうため、庭に野菜や花を植え鑑賞してもらっている。また、居室や居間、廊下は特に臭いには注意し、様々な臭いが籠らないよう換気を行うようにしている	ソファやテレビを置き、ゆったりとした空間になっています。壁には利用者が作成した季節の飾りがあり、窓からは光がよく入り明るい空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置き利用者同士で会話したりテレビを見るスペースにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明の際に家族に使い慣れたものを持ってきてもらうよう勧めている。また湯呑みや寝具等は家から使い慣れたものを持ってきてもらい使用している	ご家族が鉢植えの花を持って来て飾ったり、写真や作品を飾るなどそれぞれに工夫が見られます。	持ち込みの少ない方については職員がその方と協力し、その人らしい居室となるよう考えていかれてはいかがでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、廊下・トイレなど利用者の使用するところに手すりを付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない